



# 第 280 回つくば分子生命科学セミナー

TSUKUBA MOLECULAR LIFE SCIENCE SEMINAR

演題：「ヒストンメチル化修飾と生命機能制御」

演者： 眞貝 洋一 先生  
京都大学ウイルス研究所・教授

日時：2008年12月1日（月） 14:00-15:30

会場：医学学系棟4階大会議室 4B 483

「如何にして、ゲノム情報の発現が制御されているのか」を明らかにすることは、生命科学の最も基本的で最も重要な研究テーマの1つである。近年、エピジェネティックな機構がゲノム情報の発現制御に重要な役割を持つことが数多く示されている。ここでは、DNAのメチル化、ヒストンの様々な化学修飾、non-coding RNAなど様々なエピジェネティック情報が遺伝子発現制御を含むクロマチン構造・機能制御の調節に寄与している。特に、近年、ヒストンのメチル化修飾がクロマチン構造・機能制御のエピジェネティック情報として様々に利用されていることが示されてきた。本講演では、我々がこれまで解析を行ってきたヒストンリジンメチル化酵素および脱メチル化酵素を例に取りながら、ヒストンメチル化修飾の機能と制御、生命機能制御における役割などに関して、議論してみたい。

## 参考文献

1.Tachibana M. Matsumura Y. Fukuda M. Kimura H. and Shinkai Y. G9a/GLP complexes independently mediate H3K9 and DNA methylation to silence transcription. **EMBO J.** 2008, **27**:2681-2690.

2.Tachibana, M. Nozaki, M. Takeda, N. and Shinkai, Y. Functional dynamics of H3K9 methylation during meiotic prophase progression. **EMBO J.** 2007, **26**:3346-3359.

本セミナーは、人間総合科学研究科生命システム医学専攻「医学セミナー」も兼ねており、単位の一環でもあります。

連絡先： 人間総合科学研究科 久武 幸司 （内線 3929）

【筑波分子医学協会（TSMM）共催】 HP <http://www.md.tsukuba.ac.jp/public/tsmm/>

セミナー担当 筑波大学基礎医学系 塩見健輔